

数年前の句会で、「非戦の花、朝顔」のことが話題になりました。

昭和二十年の敗戦でシベリア抑留の後、中国の撫順(ぶじゅん)戦犯管理所に移管された約千人の日本兵は、生きては帰れないと覚悟していました。ところが、中国の戦犯管理所では「罪を恨んで人を恨まず、罪を戒め人を救う」という徹底した人道主義が貫かれていました。実際に、軍事法廷で有罪とされた四十五人を含め、昭和三十四年までに全員が釈放されたことから、「撫順の奇蹟」と呼ばれました。

そして、釈放されて帰国する時に、管理所の職員達から小さな紙包みが手渡されました。「今度、中国に来る時は、銃ではなく花を持って訪ねて来てください」と笑顔で話されたそうです。包みには管理所の庭で育てていた朝顔の種が入っていました。

その後、その種をもって多くの日本人が撫順を訪れ、今では管理所の庭一杯に咲いているそうです。

これらのことを数年前に句会で聞き、その子孫の朝顔が私の住む津市に咲いていることも知りました。私も平和の心を咲かせたいとその種を手に入れ、それ以来、「非戦の花、朝顔」は、我が家の狭い庭で、深い青色の花を咲かせています。

ロシアのウクライナ侵略や、イスラエルのガザ攻撃など、改めて平和の大切さを思う一年でした。来年も、この非戦の美しい朝顔がたくさん花をつけてくれますように。

朝顔や赦(ゆる)しの花と知る句会